

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和元年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	大阪大学	整 理 番 号	1 8 1 2
プログラム名 称	生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養		
プログラム責任者	森井 英一	プログラムコーディネーター	金井 好克
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の趣旨をよく踏まえながら、全般的に当初策定された計画を着実に実行している。 ・ 科目のモジュール化（後述）などによる分野横断的なカリキュラムは、まだ詳細が固まっていない部分もあるが着実に整理が進められており、関係部局や連携先機関との連携も含めてその具体化が期待できる。 ・ 学生支援のためのメンター制度が十分に機能していて、プログラムに対する学生の信頼感を高めている。学生からのプログラムに対する提案や要望等がくみ取れる体制が整備されている。 ・ 社会実装教育の面でも、企業をはじめとする外部組織と密に連携し、企業との交流会や文理融合セミナー等が既に実施され、今後予定されているインターンシップに関する調整も進められている。また、特任教員に対する社会実装教育も行われており、着実に計画が実行されている。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学長の強いリーダーシップの下、「国際共創大学院学位プログラム推進機構」を設置し、博士課程教育リーディングプログラムや卓越大学院プログラムの取組内容のうち、問題点を抽出し優れたものを全学に展開することを「学位プログラム企画室」において検討しており、本プログラムの取組や成果を大学院全体の改革に接続する組織的な工夫が見られる。 ・ 本プログラムでは、主専攻型の学位プログラムを策定しており、研究科独自の教育科目と研究科共有の教育科目を「モジュール」としてまとめることとしている。この取組をパイロットモデルとし、大学院全体に展開することを目指している。 ・ 今後、学内の他の卓越大学院プログラムを含め、本プログラムを通じた大学院教育システム全体の改革の具体的な姿を明示することが望まれる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モジュールについては、今後プログラムの進捗とカリキュラムの整備に応じて具体的に設定していく必要がある。教育プログラムと能力評価の基本単位として運用するものであることも踏まえ、引き続き、適切かつ着実に構築し、管理・運用していくことが必要である。 ・ 大学院改革が大学全体に波及した段階では、学位プログラムの質保証や学位審査の基準及びその体制が一貫しており、かつ明確なものである必要があるため、引き続き検討されたい。 ・ 本プログラムの中で取り組む社会実装教育について、大学院全体の教育システムへの展開を実現するための具体的な計画について、更に検討すべきである。 ・ 研究成果の社会実装の手段として、アントレプレナーシップを持って起業する学生のバックアップ体制が整備されているとのことだが、情報系等の分野以外では一般に支援を必要とする期間が長い傾向にあるため、5年間の学位プログラムの期間内で行う 			

べき支援と、修了後の継続的な支援が必要な場合のベンチャーキャピタル等適切なファンドへの橋渡しをどのように取り扱うかについて、明確化しておくことが望ましい。またベンチャーキャピタル等とのマッチングやギャップファンド等の資金的な環境整備を丁寧に行う必要がある。

- メンター制度が十分に機能しているところであり、今後もこの仕組みを活用して学生の意見やアイデアをくみ上げることにより、プログラムの充実につなげることを期待する。